



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2026年4月）

1,151,892 名

4月の利用者数

501 名

秋田県立岩城少年自然の家

（ガンバル岩城）2026. 5. 22

出前講座と宿泊研修



高校出前講座



看護系学校のA A P研修



職員A A P研修

令和8年度が始まり、学校の宿泊研修受け入れが本格化しました。近年は、新入学生の人間関係づくりに重きを置く学校が増加しており、秋田市内の高校では、毎年1年生の入学直後に「あきたアドベンチャープログラム（A A P）」の出前講座を行います。

また、潟上市のある学校では、自校の子どもたちに対して出前講座でA A Pを実施してから、宿泊研修で再度A A Pを実施し、自然体験活動の効果を最大限に高め、学校生活における親和的な人間関係づくりを進めています。

当施設の職員は、宿泊研修受け入れ前にA A Pや野外炊飯の研修を実施して、指導役と子ども役を相互に体験した感想を基に、指導方法の改善と技能向上に取り組んでいます。その他にも、近年の傾向として、成人向けの研修依頼が増加しています。

今年度も宿泊研修とともに、出前講座の依頼を多数頂戴しています。本県のA A Pの有効性を認めていただいていることに感謝しつつ、一つでも多くの学校や企業・団体の皆様に体験していただけるよう、準備しております。



野外炊飯研修

利用者をお迎えする準備

思い出づくりを応援します！

昨年度は、由利本荘市やにかほ市、地域の協賛企業やNPO法人等の皆様と構築したネットワークを基盤として、新たな事業を運営することができました。

今年度は「事業・広報・人材」の面から、由利本荘市・にかほ市との連携を更に深め、協賛各社からご協力をいただきながら、主催事業を通じて、県民の皆様の「一生の思い出づくり」を応援したいと考えております。

この後、県央地区9市町村の各学校を通じて主催事業について情報提供するとともに、各市広報や広報誌、施設ホームページやSNS等を通じて情報をお届けいたします。また、申込方法についても、一部事業について、ホームページからの申込が可能となりました。

今年度は7月・8月・9月の週休日事業一覧「思い出づくりを応援します！」を作成しました。皆様の、一生の思い出となる体験のお手伝いとして、子どもや成人の方々に向けた8事業を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

今年度も、岩城少年自然の家主催事業への参加を、お待ちしております。

(2)タガメ捜索プロジェクト 捕獲調査編！ 対象小学3年生以上
昨年からはじめたタガメ捜索プロジェクトのセカンドシーズンです。今年は捕獲調査を行います。タガメ発見時は即座に通報してください。みんなの力で、秋田のタガメを見つけて、保護しましょう。

日時：令和8年7月25日（土）午前9:00～12:00
募集：令和8年6月1日（月）～19日（金）

(6)ガラススタジオ ヴェトロ 吹きガラス体験 対象小学生以上
ガラス工房「ガラススタジオヴェトロ」さんとの共催です。お子さんと親御さんが協力して製作することも可能です。一生の思い出に、お気に入りの作品作りに挑戦してください。

日時：令和8年9月19日（土）午前9:00～12:00（ガラススタジオ ヴェトロ）
募集：令和8年8月3日（月）～8月21日（金）【定員4名】

6月の予定

受け入れ団体等

脇本第一小	2日（火）～ 3日（水）	西目小	16日（火）～ 17日（水）
かんばん認定こども園	2日（火）	鶴舞小	18日（木）～ 19日（金）
大豊小	3日（水）～ 4日（木）	本荘高校定時制	19日（金）
こども園ふじ	3日（水）	オリブ園	20日（土）
本荘東小	4日（木）～ 5日（金）	かわぐち保育園	23日（火）
にかほ市教育委員会	9日（火）	放課後デイサービスえるぶ	23日（火）
美里小・鳥海小	10日（水）～ 11日（木）	小友保育園	24日（水）
秋大附小	11日（木）～ 12日（金）	新山小学校	25日（木）～ 26日（金）
内越保育園	17日（水）	天王みどり学園	25日（木）～ 26日（金）
		かんばん保育園	30日（火）

<主催事業・出前講座>

利用相談会	6月 8日（月）		
岩谷保育園	6月 9日（火）	オープンデー	6月21日（日）



秋田県立岩城少年自然の家



FB



IG



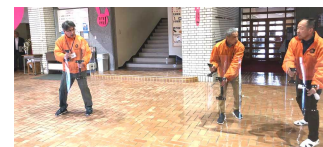
HP



ガンパル
岩城

「熊の館内侵入対応訓練」

今年度の施設運営の重点は「安全確保」です。これは、利用者と職員の安全確保を意味します。4月に職員の方提案で熊スプレー使用研修と熊の館内侵入対応訓練を行いました。熊スプレーの性能を確かめたり、身近な物品を活用して、危険を避けつつ熊を封じ込める方法を、全職員で検討する機会となりました。



防護盾の使い方を検討する職員